

2015 年度事業活動報告

(2015 年 5 月 1 日～2016 年 4 月 30 日)

2015 年度、アジアの女性と子どもネットワークは、横浜市内の学校横浜女学院との提携事業に力を注ぎました。横浜女学院は文部科学省が実施するスーパーグローバルハイスクールのアソシエイト校の認定を受け、NGO との連携の相手先として私たちの団体を指定されました。5 月に当該校に赴き国際協力の授業を実施、そこでの成果から女学生たちがタイの女子高校生を応援するプロジェクト「Girls to Girls プロジェクト」を立ち上げました。一年間横浜の高校生と一緒に活動できたことは大きな成果でした。

子どもの商業的性的搾取の根絶をめざす活動では、2015 年 10 月に厚生労働省に赴き塩崎厚生労働大臣宛てに「子どもを性の対象とすることを容認しない法改正を求める要望書」を提出し、児童福祉法の改正を求めるなど、子どもたちの置かれている状況を良い方向に持って行けるように活動をしました。

国際協力活動

1. おなかいっぱいプロジェクト

今年度は、昨年度に引き続きチェンライ県のチェンセンにあるストリートチルドレンの居場所である「ドロップインセンター」の食費の支援を行いました。私たちの支援によりこれまで昼食支援のみであったこの施設では朝食も提供できるようになり、量のみならず栄養面を重視した食事を提供できるようになったとの報告を受けています。

土日、祝日は大きな子どもがリーダーとなって、昼食を作って、全員で食べることを進めることもできました。自分で料理することが自己自尊心の回復に役立っているようです。

この事業は一口 500 円の「まんぷく基金」、「書き損じはがき」の寄付で賄われています。

3. AIDS 孤児里親支援

例年と同じくチェンマイ県の AIDS 孤児施設「希望の家」と「愛の家」に学費の支援金を送りました。5 月に両施設を訪問したときには日本国内のキルトグループが作成したキルトを届けることもできました。「希望の家」も、「愛の家」も子どもたちが大学生になるなど、タイの AIDS 孤児の状況も医学の発達に伴い状況が変化してきています。

9 月、「愛の家」から一人の大学生が茨城の大学に短期留学しました。日本滞在中、茨城を訪れて彼女との交流を続け、横浜では歓迎の懇親会も開催しました。

4. トイライブラリープロジェクト

日本おもちゃ図書館財団の協力を得て、チェンマイ県の「バン・メーランカムスクール」、アーサーパッターナデッキ財団の「子どもの家」、「ドロップインセンター」「希望の家」「愛の家」とラオスの 6 校の小学校の合計 11 か所におもちゃを贈りました。

5 月 23 日（土）～28 日（金）までお日本おもちゃ図書館財団主催のトイライブラリー視察ツアーが実施され、AWC からは、マリ代表と山本が参加し、子どもたちに直接おもちゃを届けました。どの施設でも一刻も早くおもちゃを手にとって遊びたいと子どもたちは心待ちにしており、先生の許可がおりておもちゃに飛びつく子どもたちの姿が印象に残りました。

5. かいこプロジェクト

自立支援を目的にチェンマイ県で実施している「かいこプロジェクト」は、支援先の努力で少しずつ進んでいます。粘土質の土壌に苦勞していたバン・メーランカムスクールも先生、保護者、子どもたちの努力で桑が大きく成長しいよいよ蚕を育てる準備が整いつつあります。

チェンセンの「子どもの家」では大きく成長した桑の葉をニワトリや豚のえさにまぜることで、ニワトリや豚が大きく成長する結果がでました。

6. Girls to Grils プロジェクト

横浜女学院の有志の皆さまのご協力で、タイ国チェンマイ県メーランカム村のバン・メーランカムスクールの女子寮の床の補修事業と、給食の食器の支援を実施しました。

バン・メーランカムスクールでは給食の食器の破損が著しく生徒全員が一堂に会して食事することが出来ませんでした。また、女子寮性の床がコンクリートむき出しのため、冷えが厳しく、女子生徒の健康状態に支障をきたす恐れがあったため、床の補修を実施しました。

女生徒から女生徒への支援事業ということで「Girls to Girls プロジェクト」と名付けられました。

7. フェアトレード

今年度よりタイにある SABU-SABU という会社で働く女性たちが手作りした石けんを販売しています。SABU-SABU では DV 被害に遭い、住むところを失った女性や、国籍のない山岳民族の女性たちを受け入れ、家と仕事を提供して、彼女たちの生活を支援しています。

この石けんを日本で販売することで、彼女たちを支援していきたいと思います。

また、ストリートチルドレンやスラムの女性たちの手作り品も今まで通りフェアトレードで扱い、収入向上と自立を支援したいと考えています。

国内活動

1. 子どもの商業的性的搾取の根絶をめざす活動

10月21日にマリ代表と山本が厚生労働省に赴き、10団体の方々と一緒に塩崎厚生労働大臣に宛てて「子どもを性の対象とすることを容認しない法改正を求める要望書」を提出し、児童福祉法の改正を求めました。昨年7月に「子ども買春・子どもポルノ禁止法」の改正が行われ、2015年7月から施行されていますが、いまだに「着エロ」「ジュニアアイドル」ものとして幼稚園や小学生の子どもたちの半裸や水着姿の写真集やDVDが公然と売られ、これらの子どもたちとの「握手会」や「撮影会」などに大勢の男性たちが群がるという現象が起きています。また、JKビジネスと称する女子高校生等にお散歩、マッサージ、撮影会などのサービスに従事させるような業務も公然と行われています。7月に発表されたアメリカ国務省の「人身売買報告書」でもJKビジネスが少女買春の温床となっていることが報告されました。

今後もこの活動を継続していきながら、子どもを守る社会作りに力を注いでいきたいと考えています。

2. 東日本大震災復興支援事業・熊本地震緊急支援

東日本大震災復興支援事業は、2011年から支援を続けている陸前高田市の子育て支援施設「きらりんきつず」を今年も支援しました。

4月14日21時26分に発生した熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震に関し、4月18日より募金を開始し、熊本県男女共同参画センター「はあもにい」を通じて避難所や自主避難をしている女性たちが必要としている生活物資に加え、女性や子どもを狙った性暴力やDVなどの被害も出ているため、防犯ブザーやコンパクトライトなどを4月29日に送りました。

3. 報告会

7月17日、横浜 AIDS 活動センターにて、チェンマイのストリートチルドレンの子どもたちの支援を10年以上続けている出羽明子さんを迎えてタイのストリートチルドレンの現状の報告会を開催しました。

4. 各種イベントへの参加

2015年度は以下のイベントに参加し、広報活動を行う他、フェアトレード品の販売などを行いました。多くの方々との繋がりを作ることができました。

(1) あーすフェスタかながわ 2015

2015年5月16日(土)～17日(日) 本郷台あーすプラザ

(2) ふれあい交流の広場

2015年6月30日(火)～7月2日(木) 神奈川県民サポートセンター

(3) AIDS 文化フォーラム

2015年8月日(金)～日(日) 神奈川県民サポートセンター

(4) グローバルフェスタ JAPAN 2015

2015年10月3日(土)～4日(日) お台場センタープロムナード

(5) よこはま国際協力フェスタ 2015

2015年10月10日(土)～11日(日) 象の鼻パーク

(6) 旭区民まつり

2015年10月18日(日) 旭区役所周辺

(7) ポレポレまつり 2015

2015年10月24日 本牧いずみ公園

(8) 世界 AIDS デーイベント in よこはま 2015

2015年11月21日(土) 横浜 SOGO 前イベントスペース

(9) シルキークリスマス

2015年12月13日(日) シルク博物館

(10) 中区多文化フェスタ 2015

2015年12月13日(日) 横浜市技能文化会館

(11) 国際女性デー2015

2016年3月5日(土) 男女共同参画センター横浜

5. 定例活動

(1) ボランティアデー

毎月第3木曜日午後1時30分～5時、事務局でボランティアデーが行われています。ニューズレターの発送を始め、書き損じはがきの整理、リーフレットの作成、バザー準備等の作業を行いました。

(2) バザー準備

商品管理、整理、発送等作業を、バザーにあわせて随時ボランティアが集まり、実施しました。

6. 広報活動

(1) AWC 通信

2015年12月20日 AWC通信を発行しました。

(2) AWC 事務局便り

2015年度は10号発行、FAX配信5人、メール配信70人の他、寄付御礼にも同封しており、発行枚数は増えています。

(3) ホームページ

新しい情報を多くの方に知っていただけるように、常にホームページに事業をアップできるように努めました。

7. 書き損じはがき

「おなかいっぱいプロジェクト」の寄付として書き損じはがきを収集しています。書き損じはがき2枚で3食の給食を届けることができる寄付で、今年度も多くの方から書き損じはがきをご寄付いただきました。